

## 15.国際協力室

室長 熊谷 優子

### 概要

現在、公衆衛生上の大きな脅威となるような新興・再興感染症が、地球上のあらゆる地域から、短期間のうちに我が国国内に侵入する可能性がある。SARS、鳥インフルエンザなど新たな病原体による感染症が見つかる一方、未だ多くの感染症が我が国及び周辺国において流行を繰り返している。このような状況のなか国民を感染症から守るため適切な対応を取っていくには、世界規模での情報収集、研究・技術面での国際貢献等、世界保健機関（WHO）や諸外国の研究機関や国内関係機関等との連携調整が重要である。

国際協力室は、平成9年設置後、国立感染症研究所の所掌事務に係る国際的な協力と調査及び研究の調整を行っている。具体的には、外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、社団法人国際厚生事業団（JICWELS）等から厚生労働省、国立国際医療研究センター等を通じて依頼される開発途上国等に対する技術協力（外国人研修員の受け入れを含む）の調整、世界保健機関（WHO）・世界保健機関西太平洋地域事務局（WPRO）等の国際機関及び外国政府機関等との協力（感染症国際対策のための専門家派遣、保健大臣等要人の受け入れ等を含む）の調整、関係外国研究機関との協力調整等、以下のような業務を実施している。

#### I. 諸外国との技術協力の調整

諸外国との技術協力については、外国人研修生の受け入れと、国立感染症研究所からの専門家の派遣といった人的交流がその中心となる。外国人研修生の受け入れについては、平成29年4月から平成30年3月までに、47カ国から224名の外国人研修生等を受け入れた（別表1）。また、国立感染症研究所の専門家の派遣については、平成29年4月から平成30年3月までに、48カ国420名の派遣を行った（別表2）。

また外国政府機関との協力については、関係国との国際シンポジウムの開催を行っており、その概要は以下のとおりである。

#### 1. 外国機関との連携協力

##### (1) 各国との感染症協力体制

###### ア MOUの締結

- (ア) 平成29年5月8日 中国食品医薬品検定研究院（NIFDC）とワクチン及び生物製剤の品質管理分野の研究協力等に関する覚書を締結。
- (イ) 平成29年10月11日 タイ・国立生物製剤品質管理研究所（IBP）とのワクチン及び生物製剤の品質管理分野の研究協力等に関する覚書を締結。

###### イ シンポジウム開催

- (ア) 平成29年5月8-9日 中国・中国食品医薬品検定研究院（NIFDC）と韓国国立医薬品食品評価研究所（NIFDS）と第3回ワクチン品質管理及び研究に関するシンポジウムを開催（中国・NIFDCにて、中国NIFDC、韓国NIFDS、及び感染研の三機関からワクチンの品質管理に関する専門家が参加し、インフルエンザワクチン、不活化ポリオワクチン、及び手足口病ワクチンなどに関する各機関の取り組み状況について、発表と討議を行った）。
- (イ) 平成29年9月5-6日 台湾の感染症研究機関である台湾国立疾病予防センター（台湾CDC）と第14回日本—台湾感染症シンポジウムを開催（東京・NIIDにて、有害節足動物病、侵襲性細菌および真菌感染症、ウイルス性肝炎、予防接種後副反応疑い報告および予防接種後健康被害救済制度、共同プロジェクト報告を題材に、両機関における取り組みなどについて意見交換を行い、情報を共有した。）。
- (ウ) 平成29年11月7日 日中韓の国立感染症研究機関〔感染研、中国国立疾病対策予防センター（CDC）、韓国国立感染症対策センター（CDC）〕の第11回日中韓感染症フォーラムを開催（韓国・ソウルにて、韓国CDC、中国CDC、及び感染研の三機関から感染症対策、研究等に携わる専門家が参加し、デング熱・ジカ熱、SFTS・インフルエンザ、及び感染症対策に関

## 国際協力室

する各機関の取り組み状況について、発表と討議を行った。)

### ウ 外国機関へのワクチン株供与

平成 29 年 3 月ベトナム社会主義共和国 保健省 国立ワクチン及び生物製剤研究所 (NICVB)、ベトナム国内の標準品の値付けを行うため「標準沈降ジフテリアトキソイド」を供与。

### エ 共同研究報告会ほか

平成 29 年 8 月 22-23 日 ベトナム国立衛生疫学研究所 (NIHE) との共同研究ワークショップを感染研にて開催。

## 2. 国際協力・研修業務

### (1) JICA の研修への協力

#### ア 集団研修

(7) 平成 29 年 6 月 5 日-7 月 14 日 「HIV を含む各種感染症コントロールのための検査技術とサーベイランス強化」(7 カ国・12 名・エイズ研究センター、感染症疫学センター、バイオセーフティ管理室)。

(イ) 平成 30 年 1 月 15 日-2 月 9 日 「ポリオ及び麻疹風疹を含むワクチン予防可能疾患の世界的制御のための実験室診断技術研修」(4 カ国+WHO Philippines、WPRO・9 名・ウイルス第二部、ウイルス第三部、細菌第二部、感染病理部、バイオセーフティ管理室、動物管理室、感染症疫学センター、病原体ゲノム解析研究センター、インフルエンザウイルス研究センター)

(ウ) 平成 30 年 1 月 15 日-2 月 9 日 「ワクチンの品質・安全性確保のための国家検定機関強化」(2 カ国+WHO・11 名・ウイルス第一部、ウイルス第二部、ウイルス第三部、細菌第二部、感染病理部、品質保証・管理部、バイオセーフティ管理室、動物管理室、インフルエンザウイルス研究センター)

#### イ 集団研修フォローアップ

平成 29 年 9 月 3-9 日 ミャンマー連邦共和国における「HIV を含む各種感染症コントロールのための検査技術とサーベイランス強化」のフォローアップ調査(エイズ研究センター職員 2 名)

#### ウ その他研修

(7) 平成 29 年 5 月 25 日 「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成における日本の経験」(ザンビア国 6 名・感染症疫学センター)

(イ) 平成 29 年 8 月 14 日 「地域保健システム強化による感染症対策コース A」(5 カ国・8 名・寄生動物部、感染症疫学センター)

(ウ) 平成 29 年 9 月 8 日 「感染症対策研修」(6 カ国・8 名・感染症疫学センター)

(エ) 平成 29 年 9 月 19-22 日 「重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実地疫学(管理者向け)」(9 カ国・14 名・インフルエンザウイルス研究センター、バイオセーフティ管理室、感染症疫学センター、ウイルス第一部、細菌第二部)

(オ) 平成 29 年 10 月 2 日 「地域保健システム強化による感染症対策コース B コース」(10 カ国・12 名・寄生動物部、感染症疫学センター)

(カ) 平成 30 年 1 月 26 日 「包括的なウイルス肝炎対策」(3 カ国・9 名・ウイルス第二部)

### (2) JICA 技術プロジェクト等への協力

ア ベトナム国における「感染症の予防・対応能力向上のための実験室の機能及び連携強化プロジェクト」

#### (7) 派遣

① 平成 29 年 4 月 18-22 日 バイオセーフティ管理室、ハンセン病研究センター感染制御部 職員 2 名

② 平成 29 年 8 月 23 日-9 月 8 日 バイオセーフティ管理室 職員 1 名

③ 平成 29 年 11 月 5-11 日 バイオセーフティ管理室 職員 1 名

④ 平成 30 年 1 月 17-23 日 バイオセーフティ管理室 職員 1 名

イ ナイジェリア連邦共和国における「公衆衛生上の脅威の検出及び対応強化プロジェクト」GHSA/IHR 合同外部評価への調査

#### (7) 派遣

平成 29 年 6 月 9-22 日 ウイルス第一部 職員 1 名

ウ ナイジェリア連邦共和国における「BSL3 検査室整備」事前調査

#### (7) 派遣

平成 29 年 8 月 12-20 日 バイオセーフティ管理室 職員 2 名

## 国際協力室

エ ナイジェリア連邦共和国における「NCDC 案件への無償援助協力」準備調査、技術協力詳細計画策定調査

(7) 派遣

平成 29 年 8 月 12-27 日 ウイルス第一部 職員 2 名

オ ガーナ共和国における「SATREPS プロジェクト・感染症サーベイランス体制強化とコレラ菌・HIV 等の腸管粘膜感染防御に関する研究」

(7) 派遣

① 平成 29 年 8 月 22 日-9 月 6 日 研究打合せ及び共同研究実験 エイズ研究センター 職員 1 名

② 平成 29 年 11 月 18-29 日 外部専門家としてサーベイランスの評価・助言を実施 感染症疫学センター 職員 2 名

カ コンゴ民主共和国における「新興感染症対策能力強化プロジェクト」の調査団員

(7) 派遣

平成 29 年 10 月 7-22 日 ウイルス第一部 職員 2 名

キ インドネシア共和国における「感染症の早期警戒警戒対応システム運用強化プロジェクト」詳細計画策定調査団

(7) 派遣

平成 29 年 12 月 17-21 日 感染症疫学センター 職員 1 名

### (3) 国際緊急援助隊への協力

ア 派遣

なし

イ 研修

(1) 導入研修 平成 29 年 9 月 16-18 日(感染症疫学研究センター)

(2) リーダーシップ研修 平成 29 年 9 月 19 日(感染症疫学研究センター)

### (4) その他研修協力

ア 名古屋大学大学院

(7) 平成 29 年 6 月 21 日 「ヤング・リーダーズ・プログラム」(9 カ国・14 名薬剤耐性菌研究センター)

イ 厚生労働省健康局結核感染症課

(7) 平成 29 年 7 月 31 日から 8 月 4 日 WHO/GAP III トレーニングコース (WHO 講師 4 名、バイオセーフティ管理室)

ウ 科学技術振興機構 (JST)

(7) 平成 29 年 9 月 20-29 日 「アジア地域における感染症疫学若手研究者交流事業」(6 カ国・10 名・企画調整主幹、感染症疫学センター)

エ 厚生労働省 医政局総務課 医療国際展開推進室

(7) 平成 29 年 11 月 7 日 「ASEAN 諸国に対する人材育成研修・(シンガポール保健省「感染症の予防・調整・対策」に関連する研修)」(シンガポール 4 名・薬剤耐性菌研究センター、感染症疫学センター)

### 3. 国際機関及び外国政府機関等との協力の調整

(1) WHO・WPRO 関連調整

ア 会議等開催

(7) 平成 29 年 10 月 31 日-11 月 1 日 第 20 回ポリオ研究会議を開催(ウイルス第二部)。

(4) 平成 29 年 11 月 21-22 日 第 8 回 WHO 世界特別および地域レファレンス日本脳炎ラボラトリー西太平洋地域非公式会議開催(ウイルス第一部、ウイルス第二部、昆虫医科学部、感染症疫学センター)

イ 会議等派遣

(7) 平成 29 年 4 月 9-12 日 参加 第 6 回 GISRS のための抗ウイルス薬感受性サーベイランスに関する WHO 専門家グループ会議(香港・1 名)

(4) 平成 29 年 4 月 18-22 日 西太平洋地域における麻疹及び風疹排除に関するコンサルテーション会議(フィリピン・1 名)

(7) 平成 29 年 4 月 24-28 日 第 11 回 WHO 西太平洋地域事務局・南東アジア事務局地域のナショナルインフルエンザセンターとインフルエンザサーベイランスに関する会議(マレーシア・3 名)

(エ) 平成 29 年 5 月 7-12 日 パンデミックインフルエンザワクチン製造、品質管理のためのバイオセーフティのリスク評価およびガイドライン改訂に関する会議(スイス・1 名)

(オ) 平成 29 年 5 月 27-6 月 3 日 西太平洋地域ナショナルインフルエンザセンターのスタッフを対象としたウイルス分離・性状解析に関するトレーニングコースに研修講師として参加(オーストラリア・1 名)

(カ) 平成 29 年 6 月 5-10 日 WHO コラボレーションセンター長間における研究打合せ及び、

## 国際協力室

- 第3回パンデミック初期におけるインフルエンザワクチン対策会議（スイス・1名）
- (キ) 平成29年6月11-17日 第26回世界保健機関西太平洋地域事務局（WPRO）のワクチン接種に関する技術委員会及び事前会議（フィリピン・4名）
- (ク) 平成29年6月25日-7月1日 第15回WHO世界麻疹風疹実験室ネットワーク会議（スイス・1名）
- (ケ) 平成29年7月10-14日 WHO西太平洋地域事務局が主催するAPSED(Asia Pacific Strategy for Emerging Diseases（アジア太平洋地域における新興感染症への対処方針に関する）参加（フィリピン・2名）
- (コ) 平成29年7月10-15日 ERL（主要品質管理研究室）関係者会議および第24回WHO ERLs、インフルエンザワクチンメーカー-NIBSC 会議（英国・1名）
- (ク) 平成29年7月11-22日 WHOインフルエンザ流行予測モデル開発会議、第24回WHO ERLs、インフルエンザワクチンメーカー-NIBSC 会議、世界インフルエンザセンター会議、及びパンデミックインフルエンザ対策会議に出席（英国/スイス・1名）
- (シ) 平成29年7月16-21日 WHOナショナルインフルエンザセンター会議（スイス・1名）
- (ス) 平成29年7月16-29日 WPRO FETP フェローシップ・プログラムにおける研修用ビデオ作成に参加（フィリピン・1名）
- (セ) 平成29年7月30日-8月5日 WHO西太平洋および東南アジア地域共同日本脳炎、ジカ、その他のアルボウイルスの診断に係るワークショップに参加（フィリピン・1名）
- (ソ) 平成29年8月21-24日 WHOで開催されるグローバル・ベンチマーキングツールレビューに参加（スイス・1名）
- (タ) 平成29年8月28-9月1日 WPRO域内連携運営会議および第6回ワクチンに関する規制当局ワークショップに参加（フィリピン・3名）
- (チ) 平成29年9月13-16日 ベトナムにおけるウイルス性肺炎に関するサーベイランスレビューに参加（ベトナム・1名）
- (ツ) 平成29年9月18-21日 ポリオワクチンの安全な生産に関するWHOガイドライン作成のためのワーキンググループ会議（スイス・1名）
- (テ) 平成29年9月18-21日 第7回人獣共通感染症に関するワークショップに参加（フィリピン・2名）
- (ト) 平成29年9月23-30日 南半球インフルエンザワクチン株選定会議およびWHO コラボレーションセンター、サーベイランス対応システム主要研究機関会議（オーストラリア・3名）
- (ナ) 平成29年9月25-30日 第7回WPRO ワクチン予防可能疾患実験室ネットワーク会議（フィリピン・5名）
- (ニ) 平成29年9月30日-10月8日 GOARN（地球規模感染症に対する警戒と対応ネットワーク）トレーニングプログラムへ参加（フィリピン・1名）
- (ヌ) 平成29年10月8-12日 ポリオ実験室診断小委員会会議（英国・1名）
- (ネ) 平成29年10月15-21日 WHO生物学的製剤の標準化に関する専門家委員会2017参加（スイス・3名）
- (ノ) 平成29年10月30日-11月3日 生物学的製剤の国立試験検査機関ネットワーク会議（インド・2名）
- (ハ) 平成29年10月30日-11月3日 第19回WHO 痘瘡ウイルス研究アドバイザー委員会に参加（スイス・1名）
- (ヒ) 平成29年10月31日-11月4日 ジフテリアサーベイランス基準に関する専門家会議（ポルトガル・1名）
- (フ) 平成29年11月22日-12月2日 オーストラリアにおけるIHR（国際保健規則）の共同外部評価活動に参加（オーストラリア・1名）
- (ヘ) 平成29年12月11-17日 BSL-4ラボラトリーネットワークに関する諮問会議（フランス・1名）
- (ホ) 平成29年12月17-22日 WHO 専門家会議（GISRSを用いたRSウイルスのサーベイランスに関する会議（米国・1名）
- (マ) 平成30年1月23-28日 WHO世界麻疹風疹実験室ネットワーク取りまとめ役技術会議（米国・1名）
- (ミ) 平成30年2月18-25日 北半球インフルエンザワクチン株選定会議およびWHO コラボレーションセンター、サーベイランス対応システム主要研究機関会議参加（スイス・3名）
- (ム) 平成30年2月19-22日 WHO/SEAROが主催

## 国際協力室

- する薬剤耐性菌サーベイランス会議(インド・2名)
- (イ) 平成30年2月19-24日 WHOの核酸ワクチンに関する協議会議(スイス・1名)
- (ロ) 平成30年2月25日-3月1日 第9回薬剤耐性に関する戦略的、技術的諮問グループ会議(スイス・1名)
- (ハ) 平成30年3月10-17日 ポリオ実験室診断小委員会会議および第24回ポリオ実験室ネットワーク非公式会議(スイス・1名)
- (ニ) 平成30年3月24-30日 WHOブルーリ潰瘍に関する会議に出席し発表及び討論、協議に参加(スイス・1名)
- ウ WHOフェロシップ受入  
なし
- エ WHO/JEE 評価団による視察  
平成30年2月27日にWHO/JEE (Joint External Evaluation) 評価団による視察が行われた(ウイルス第一部、細菌第一部、真菌部、バイオセーフティ管理室、インフルエンザウイルス研究センター、薬剤性生研究センター)
- オ WHO 総会及び執行理事会に関する対象方針案への厚生労働省国際課からのコメント依頼への対応。
- (2) OECD によるパブリックヘルスレビュー評価者による視察  
平成30年2月22日にOECD(経済協力開発機構)によるパブリックヘルスレビュー評価者による視察が行われた(感染症疫学センター)
4. その他協力、調整
- (1) 国際会議支援(所内開催)  
なし
- (2) 国内会議支援(所内開催)  
なし
- (3) 海外の要人来訪
- ア 平成29年5月10日 英公衆衛生庁 CEO Dr. DANCAN 他5名表敬訪問。意見交換。
- イ 平成29年5月31日 タイ国生物製剤に関する国家検定研究機関 (Institute of Biological Products: IBP) 副所長 Dr. SUMANA 他12名訪問。意見交換。
- ウ 平成29年6月23日 米国福祉保健省 HHS Ms.

- Elvander 他3名訪問。意見交換。
- エ 平成29年9月15日 米国 CDC, Dr. Diana Bensyl 他3名訪問。意見交換。
- オ 平成29年12月13日 アフリカ CDC Dr. John Nkengasong 表敬訪問。意見交換。
- カ 平成30年2月22日 OECD Dr. Charles Baubion 他1名の訪問。意見交換。
- キ 平成30年2月27日 合同外部評価 (WHO/JEE) Dr. Mark Salter 他5名訪問。意見交換。
- ク 平成30年3月2日 米国国務省海洋・国際・環境科学局 副次官補 Dr. Johnathan Margolis 他4名訪問。意見交換。
- (4) 感染研セミナー等の開催  
なし

## II. その他の国立感染症研究所所掌事務に係る調整等

1. 国際交流事業に係る募集・申請等  
日本学術振興会等国際交流事業(外国人研究者招へい、国際学会等派遣に係る募集、申請手続、調整等を行っている。
- (1) 外国人特別研究員
- (2) 二国間共同研究
2. 国際協力連絡・調整等
- (1) 実地疫学専門家養成コースに係る調整の他、厚生労働省結核感染症課、JICA、国立保健医療科学院、国立国際医療研究センター等との国際協力連絡・調整等を行っている。
- (2) 日本医療開発研究機構補助金の外国人研究者向け研修等の受入を行っている。
3. その他
- (1) 感染研インターネット上の専用ページ「国際協力」において、国際研究活動の情報を提供している。
- (2) 所内専用ページにおいて、全ての職員の海外活動情報(海外出張報告書)の還元、外国人研究者の来日に係る手続きや日本学術振興会交流事業にかかる応募情報等掲載している。